

平成4年(1992年)6月20日 土曜日

宗 教 新 聞

# 日韓トンネル実現へ

## 第二期に千二百億円

### 課題は二十兆円の費用



講演する蘭曉石・中国国際友好連絡会第一副  
秘書長

日本、韓国、中国の専門家が集まり、国際ハイウェイ、日韓トンネルの意義や役割などについて話し合う国際シンポジウム「東北アジアの開発と国際ハイウェイ・日韓トンネルの役割」(国際ハイウェイプロジェクト、日韓トンネル研究会共催)が十五日、東京都内

のホテルで開催された。国際ハイウェイ構想は世界基督教統一神霊協会(統一教会)の文鮮明師が提唱したもの。韓国、中国の専門家はそ

れぞれの国内事情と実現に至る困難を指摘しながらも同構想実現への期待を表した。現在佐賀県で掘削中の

日韓トンネルのパイロットトンネルは四百三十メートルが、今後第二期工事として千二百メートルまで掘り進める予定。

シンポジウムは清水馨八郎・千葉大学名誉教授の司会で始まり、高橋彦治・地下工事コンサルタント顧問、成百詮・(株)韓国海外技

術公社社長、蘭曉石・中国国際友好連絡会第一副秘書長、河野博忠・筑波大学教授の四人のパネラーが講演した。

成氏は、「今年三月ソウルにも韓日トンネル技術研究会が発足したことから、韓日の技術者間の意見交換の場として期待する」と述べた。

蘭氏は「国際ハイウェイ構想には王震・国家副主席も関心が高く、文鮮明師が提唱した同構想は、大胆で先見性があり、実現すれば人類の発展と平和に巨大な貢献をするものと認識している」と述べた。

今後、同構想実現化に向けての課題は、二十兆円といわれる建設費用の負担方法と、関係国がそれぞれメリットを享受する互惠主義の問題である。